

令和5年8月26日27日

大島三原山トレッキングと観光

副反応は心配なし、それよりも何事にも無反応になっているのが心配な仲間が元町港に着きました



<1日目>

竹芝桟橋発→大島元町港着バス→三原山頂口→三原神社→お鉢めぐり→大島温泉ホテル

大島温泉ホテル(三原山温泉) 13,200円2食付き

☎049992-2-1673 板橋 10畳 赤羽 和室 禁煙 (バストイレ付)



晴～れた空、そ～よく風 憧れの伊豆大島航路で大島元町港着



三原山火山口までは溶岩地帯



見下ろせば元町港の街並み



三原山展望所から溶岩流の最先端部



爆発の祟りと言い伝えられる溶岩のゴジラ岩



大島での無事を祈ってお詣り、御参り



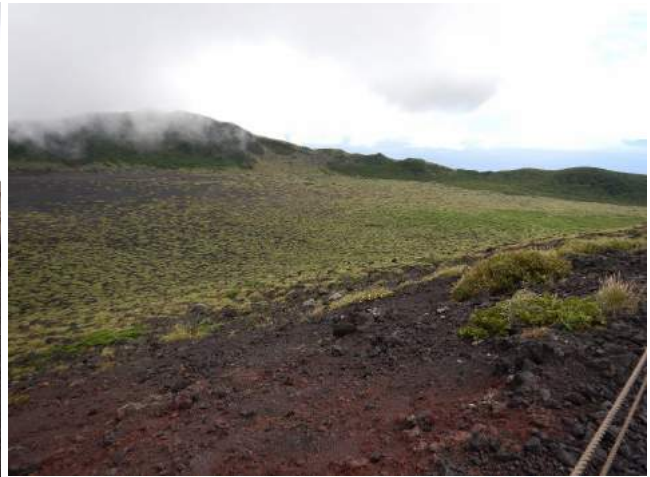
おみくじは『もちろん、だ～いきちい大吉』



1986年の噴火では、マグマがこの火口から、あのマグマ大使もここからあふれ出た



剣が峰から火口をみると白いけむり水蒸気が立ち込めている



ラクダにまたがりゆらり裏砂漠のはずが『ラクダ夏休み』のため体験できず



宿泊は大島唯一の老舗温泉ホテル 部屋は板橋10畳赤羽、金目鯛のしゃぶしゃぶ食べ放題



極上湯から上がり晚餐会で盛り上がり、楽しめました



いつもの儀式を終え、10畳の部屋で松村さんの差し入れウイスキーでまだまだ続きました



＜2日目＞ 大島温泉ホテルからタクシーで波浮港に向かいました
途中、地層大切断面(高さ24m、長さ630m)別名バームクーヘン



三日遅れの波浮港 ハブに聞きました 『あんたは毒持っとるか?』 ハブ 『イエス アイ ハブ』



『アンコ椿は恋の花』の碑、作曲家の松村昭介さん

伊豆の踊り子:古川端康成



波浮港のレトロな街並み



昭和の作曲家と明治の文豪と共にした波浮港ぶらり旅でした



大島火山博物館館長より歓迎を受け、観光大使を命ぜられました



大島の噴火の歴史が学べる



当時の凄まじさを大型スクリーンで



せっかくの旅もこのような人がダメにする



元町港のかあちゃんの磯ラーメンはサザエとイカ、エビの海鮮入り

